

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314

立教百八十六年
明けましておめでとうございませす



昨年は教祖百四十年祭に向けての理作りとして「ひとだすけのためのおちばがえり」を目標に、それぞれ一生懸命におつとめくださいまして、誠にご苦労様でした。

昨年末に、笠岡大教会として、この度の年祭活動の方針「つながろう、おやさまのお心に。つながよう、信仰の喜びを。」と目標「ひながたを学び、そのお心を実践しよう」を定めました。そして本年は、いよいよ年祭活動一年目の年を迎えます。

一月に直轄教会、二月三月に部内教会に一斉巡教を行い、年祭の意義の周知徹底を図った上で、それぞれの教会で「目標と実践項目」を定めて、年祭活動を推し進めて頂きたいと思ひます。

三年千日と仕切つての年祭活動、しっかりと笠岡一丸となって通り切れるように、まずスタートのこの一年目の年を、お互い勇ませあつて通らせて頂きましょう。

笠岡大教会長

上原明勇



立教185年 年末大掃除

管理部



12月22日(木)、恒例の年末大掃除を行い、大教会長様ご夫妻をはじめ役員・部内教会長・婦人会・青年会・信者ら約50人が参加した。

事前準備として神殿内の鳴り物、結界、賽銭箱などを廊下に出し、倉庫から養生シートや足場を搬入の後、神殿内で組み立て、午前9時より大教会長様のお手に合わせて三殿礼拝した後、それぞれの持ち場に分かれて大掃除が始まった。



は足場にあがり高所のはたき掛けや拭き掃除、足場の移動、神殿や付属建物の窓拭きや各部屋とトイレの掃除、汚れた布巾の手洗い、昼食や休憩時のお茶や茶菓子の用意と、それぞれの持ち場を手際よくかつ細やかに1年の感謝・御礼を込めて真剣に勤めさせて頂いた。



途中、休憩をはさみ午前中には各所のきしんを終え、大教会長さまと共に三殿を礼拝して今年の大掃除を終えさせて頂いた。

参加の皆様には年の瀬の忙しい中大教会大掃除にご参加頂き誠に有り難うございました。

📌 詰所からのお願い

詰所での宿泊・喫食について

- ・詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、2日前までには、必ず詰所へご連絡ください。
- ・食事をしない(宿泊のみの)場合でも、2日前には申し込みをして下さるようお願い致します。

部内教会・信者に徹底願います。



駆け付けてくれた若者達



前日の餅米準備

昨年末12月27日、詰所で餅つきひのきしんが行われました。26日14時頃か

詰所で 本部お供え用 餅つきひのきしん



搗きたてのお餅に舌鼓



おいしくな〜れと少年会員

ら精米洗いや餅つきの準備が行われ、当日27日には朝7時から10時頃まで、詰所関係者含め男性18人、女性9人、少年会員9人計36人の人がお集まり下さり、本部へお供えする餅つきを賑やかにさせて頂きました。集まって下

海松ヶ岡分教会 森本伸平
修養科の3ヶ月間で特に印象に残った事を挙げると、おさづけの取り次ぎでした。

修養科を終えて



頑張るベテラン

さった方々ありがとうございました。ひのきしん後には、つきたてのお餅、温かい豚汁を皆んなで美味しく頂きました。今年、3年ぶりに御節会が開催されました。(中村剛史)

興明分教会 相原一尋
一般的な家庭生活から一転して、毎日が天理教修養科生として、3ヶ月が

修養科を終えて

私がよくようになったのは19才の時、それから3年が経ちましたが、記憶の中で自分が取り次いだのは、両手で数える事が出来る程度だったと思います。積極的に取り次げなかったのは、自分の中でどこか恥じらいの気持ちやこれでもいいのかという不安があったからだと思います。ですが、修養料に来て、朝と夕のおのちの後に毎日おさづけの取り次ぎ合いをするようになってから、いつの間にかその抵抗のようなものは無くなりました。修養科でも、生徒にほぼ毎日1回はおさづけを取り次ぐ事が出来るようになりました。おさづけを取り次ぐ事は天理教の教えであるおたすけになり、未信者に取り次げばにいがけにもなると思います。修養科が終わってからも、継続して積極的に取り次いでいこうと決めています。そして身近な人達の道しるべになればいいなと思っています。

過ぎました。私自身、心と体の変化に感じ入っています。

詰所での朝・夕づとめ、てをどりの学び、教養掛の先生方のお話、修養科生のおさづけの取りつきあいと規則正しい生活、また、修養科でのさまざまな学習、クラスの先生方・クラスメイトとの対話を通しての心のふれあい、あるいは、詰所の教養掛の先生方と、人を通しての、生の天理教のお教えを学びました。よろこんでいます。楽しいのです。時に触れ、お話が心に残り感動したことを忘れません。

毎日の生活の中で天理教の教えを生かし、人さんによるこんで頂きたいと思えます。心勇んで、元気に毎日を通して頂きたいと思えます。親神様は心定めが第一やおっしゃっています。私の心定めをここに表明します。

- 一、おちば帰りを毎月26日に、月次祭の参拝をします。
- 一、毎日朝づとめ夕づとめとおさづけの取りつきをします。
- 一、毎月15日、興明分教会の月次祭参拝とひのきしん。
- 一、地成のゴミ拾いひのきしんをします。

以上

十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には「月日にハセかいどう、ハみなわが子 たすけたいとの心ばかりで」と日々自由の御守護を下さるばかりでなく 身上事情を通して心の入れ替えを促し陽気ぐらしへとお導き下さいます 親心の程は 誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は日々朝夕に御礼申し上げると共に 御恩報じを思い念じて たすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いておりますが 気がつけば今年も残すところあとわずかとなりました

改めて一年を振り返ってみますと 次なる塚教祖百四十年祭を目指しての道すがら 今年も理作りとして「ひとだすけのためのおちばがえり」に重きをおいて一年の歩みを進めさせて頂きました そんな中秋の大祭においては真柱様より諭達第四号の御発布を頂戴し 十一月には本部巡教を受け 勇み心一杯に成人の歩を進めております

そして今日の吉日は十二月の御祭日でございますので 日々の御礼と併せ今年一年の御礼も申し上げます 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて 本年納めの月次祭を執り行なわせて頂きます 御前には年の瀬の慌ただしさも厭いませす 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し 同じ思いに伏し拝む状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて年が明ければ 教祖百四十年祭に向けて三年千日と仕切って 全教挙げての成人の歩みが始まります 笠岡では 一月は直轄教会へ 二月三月には部内教会へと全教会一斉巡教をさせて頂き 諭達の徹底を計ると共に 笠岡の動きとして「つながろう、教祖のお心に。つなげよう、信仰の喜びを。」の方針のもと「ひながたを学び、そのお心を実践しよう」を活動目標として「ひながた」を辿らせて頂き それぞれ一人一人が成人の歩を進め 世界たすけの歩みを一手一つに推し進める事を誓い合いたいと存じます

何卒親神様には 皆の真実誠の心をお受け取り下さり 万たすけの上に自由の御守護を賜りまして 一列兄弟が互いに助け合う陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百八十五年 十二月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	役割										講話	祭主	扈者					
									区分																	
てをどり									おつとめ			地方			役割				講話		祭主		扈者			
															坐り勤				上原 繁道		大教会長様		吉岡誠一郎		虫明立生	
															前半				二月講話		賛者		指図方		渡邊隆夫	
															後半				学生層育成者講習会		岡崎治喜		門脇元教		門脇元教	
門脇加津	佐藤香苗	上原順子	中村義太郎	中村剛	上原繁次	佐藤道孝	横山逸郎	田中隆之	今川佐智子	田中ますみ	大教会奥様	吉岡壽	上原繁道	大教会長様	岡崎治喜	今川昌彦	岡崎真一	坐り勤	上原 繁道	大教会長様	吉岡誠一郎	虫明立生				
門脇加津	高木孝子	岡崎豊子	内海史郎	杉原善朗	渡邊隆夫	高木昭祥	田林久嗣	浅野明教	田中つかさ	岡崎和美	武内正美	虫明立生	上原浩一	岡崎真一	山田敏教	吉岡誠一郎	前半	二月講話	賛者	指図方	渡邊隆夫					
横山小智榮	吉岡八恵	森本富美子	赤木素志	岡田誠	岡崎治喜	浅野明教	三代温生	上原繁次	上原千枝子	山野なつ	室野悦子	今川昌彦	上原志郎	上原志郎	杉原善朗	横山逸郎	後半	学生層育成者講習会	岡崎治喜	門脇元教	渡邊隆夫					

大教会だより

◎第九七六期修養科

自 立教185年10月1日
至 立教185年12月27日

*教 養 掛(主任、副主任)

一ヶ月目 ⑤ 森本 忠 善 (大教会役員)

海松ヶ岡分教会長

⑥ 三代 幸 徳 (米府分教会長)

二ヶ月目 ⑤ 吉岡誠一郎 (大教会役員)

興明分教会長

⑥ 藤井 治 喜 (福節分教会長)

三ヶ月目 ⑤ 谷内 秀 自 (輝美濃分教会長)

⑥ 余村 元 (多古浦分教会長)

*修了者

海松ヶ岡 興明 相原一尋
森本伸平

◎立教186年春季大祭参拝・全教会一斉巡教

笠岡講社 前会長様

(*印は2月以降)

福山	高屋	神邊	島根	久松	鶴山	弥高	陽備	摩耶	金浦	興明	ひろさと	陶山	芳井	海松ヶ岡	*東悠	吸江	照陽	輝美濃	新山邑	皆部	明石市	上田市	府中市	東城市	服部	島中	驛家
上原繁道	大教会長様	岡崎真一	岡崎真一	門脇元教	田中隆一	岡崎真一	大教会長様	上原繁道	上原志郎	中島誠治	田中隆一	中島誠治	上原繁道	大教会長様	大教会長様	大教会長様	武内正美	前会長様	上原繁道	田中隆一	中島誠治	大教会長様	中島誠治	田中隆一	上原繁道	門脇元教	上原志郎

葦	湯	備	神	*美	*錦	神
陽	田	中	昭	之	備	免
大	大	門	岡	武	上	岡
教	教	脇	崎	内	原	崎
会	会	元	真	正	繁	真
長	長	教	一	美	道	一
様	様					



先日、娘から良い歌があるから聴いてみてと言われた。

最近の若者の曲はテンポが速く歌詞も意味が解らないものが多いので正直面倒臭いと思いつながらダウンロードして聴いてみた。

その歌詞の一部がこれです。

「出来るだけ嘘は無いように
 どんな時も優しくあれるように
 人が痛みを感じた時には
 自分の事のように思えるように」
 (中略)

「自分の背中は見えないのだから
 恥ずかしがらず人に尋ねるといい
 心は誰にも見えないのだから
 見えるものよりも大事にするとい

教祖百四十年祭
 笠岡大教会活動方針

つながるう、
 おやさまのお心に。
 つなげよう、
 信仰の喜びを。

活動目標
 ひながたを学び、
 そのお心を実践しよう。

「い」
 他意は無いとは思いますが、娘から私に足りて無いものを示された気がした。道を通る者として、常にこんな心で居れたら、きっと教祖はお喜び下さるのでは無いだろうか。
 今月からスタートした教祖140年祭への活動目標も「ひながたを学び、そのお心を実践しよう」である。私はこの歌を口ずさみながら、三年千日を心明るく勇んで通らせて頂くと思っています。
 因みに、これはバックナンバーの「水平線」という歌です。
 (や)

KASAOKA
ひながた通信